

資料3 指導過程 (展開の部分のみの例)

| 段階 | 指導事項 | 学習内容・活動(資料) | 時間 | 予想される児童の反応(学習形態) | 指導上の留意点・評価 |
|------------|-------------------|---|-----|--|---|
| 展 開 | かざわづくりの作業・ころがしためし | 3、自分の持ってきたまるい形のものを使って、画用紙に円をかき、切りぬいてかざわを作る。 ○鉛筆での形とり。 ○はさみで円を切りぬく。 | 10分 | (個人) ○この画用紙にまるくかくんだって。 ○この大きさのまるがいいかな。 ○ぼくの小さいから、かして。 ○それぞれ持ってきた円形のものを使って円をかく。 ○円を切りぬく。 ○うまくはさみが使えない。 ○たおれてしまって、ちっともころがらない。 ○なぜだろう。 ○どうすればいいかな。 ○風をあてるところがない。 | <ul style="list-style-type: none"> 直径15~20cmぐらいの円盤形が切りこみを入れるにも便利なので、あらかじめ大きさを示しておいて、円をかくための材料を集めさせる。 ◎ちょうどよい形が見つからなかった児童には、まわりの児童が協力して自分の持ってきたものを貸してやれるように助言する。 ◎はさみの使い方のきまりを提示し、はさみの使い方について考えさせる。 ・切りぬいた円盤形のかざわを下じきであおがせ、ころがらないわけを考えさせる。 ・はねづくりやかざわづくりははじめての経験の児童が多いと思われるので、自由に話しあわせためし切りさせ、その中から、よい考えをだしあえるようにさせる。 |
| | かざわの修正・ころがしためし | 4、かざわをころがしてみる。 ○ころがらない。 ○なぜだろう。 5、かざわがよくころがるようにくふうする。 ○風を受けるところをくふうして作る。 ○折って円の中心を見つけて切りこみを入れる。 (図A・B) ○切りこんで作ったはねを前後に折る。 ○下じきでころがしてみる。 | 20分 | <ul style="list-style-type: none"> ○どこか切ってみて、風を受けるところを作ればいい。 ○わかる、はねつくんべ ○友達の作業をみて、まねして切りこみを入れる。 ○切ったけど、これどうするの。 ○あ、まげんのか。 ○なかなか自分から考えつかないで、もたもたしている。 ○さっそく風をおこして、ころがす。 ○うわあ、ころがった。 ○色をつけたらきれいだな。 ○先生、色をつけてもいいですか。 ○夢中になって下じきであおぎ、ころがり競争をしたりする。 ○扇風機のところで、ころがしてみる。 | <ul style="list-style-type: none"> △自分で考えたり、相談したりしながら、円盤形から、はねのあるかざわが作れたか。(製作過程) |

◎印は、教育目標、人間性豊かな児童育成のための関連配慮事項

・印は、学習活動における教師の配慮事項

△印は、学習過程各段階における到達度評価

四、実践結果と今後の課題

- (一) 児童の変容
- 興味・関心のもてる体験的活動が連続し、しかも活動の目的が明確にされるので、児童の学習態度が生き生きし、目に輝きが見られてきた。
- (二) 総合的・関連的な見方や柔軟な考え方ができるようになってきた。
- (三) 集団活動の中で、思いやりや協力感謝の心が少しずつ育ってきた。
- (一) 実践者の意識の変容
- 暗中模索の中で、どうにか本校独自の指導計画を作成できた喜びは、感慨無量である。
- (二) 合科的な指導は、子供たちの発達段階によく合致したものであることがわかった。
- (三) 今後の課題
- 活動に遊びを取り入れることによって、興味・関心・意欲を高めることができたが、遊びに力が入り過ぎて目的を見失わない配慮をしていく。
- (二) 合科的な単元を組み立て、活動面をより多くとり入れていくためには、既存の施設のいろいろな利用方法とともに設備の充実が必要である。
- (三) 教科の目標内容を分析検討し、目標の関連性を吟味する作業の中に、従来の教科別指導より豊かな、しかも活発な授業が展開される可能性が残されていると考える。